

Tokunoshima Alien species

徳之島の外来種

～島の宝が危険にさらされています～

外来種を見つけたら・・・

徳之島にどのような外来種が侵入しているのか、侵入している場合は島の中でどのような分布をしているのかなど、外来種の生育状況については分かっていないことがたくさんあります。地域にお住まいのみなさんに島の自然についての情報をいただくことにより、これらの状況を把握していきたいと考えています。外来種を目撃された場合は、ぜひ情報をお知らせ下さい。

- 1 種名 — 種の判別のためにも、できれば写真をお撮りください
- 2 目撃場所 — 地図にできる範囲で位置を示してください (GPS 情報があればさらにいいです)
- 3 目撃情報 — 年月日、おおよその時刻など
- 4 その他 — 動物の場合はどのような行動をしていたかなど、わかる範囲で

外来種の情報 は 下記の機関へご連絡ください

環境省 徳之島管理官事務所

〒891-7692

鹿児島県大島郡天城町平土野 2691-1
天城町役場4階

☎ 0997-85-2919 ☎ 0997-85-2045

徳之島町企画課

〒891-7192

鹿児島県大島郡徳之島町亀津 7203

☎ 0997-82-1111 (代表)

☎ 0997-82-1101

天城町企画課

〒891-7692

鹿児島県大島郡天城町平土野 2691-1

☎ 0997-85-3111 (代表)

☎ 0997-85-3110

伊仙町きゅらまち観光課

〒891-8293

鹿児島県大島郡伊仙町伊仙 1842

☎ 0997-86-3111 (代表)

☎ 0997-86-2301

外来生物法をご存じですか？

(特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律)

この法律の目的は、特定外来生物による生態系、人の生命、身体、農林水産業への被害を防止することです。そのために、被害を引き起こす海外起源の外来種を特定外来生物として指定し、その飼養、栽培、保管、運搬、輸入を規制し、特定外来生物の防除等を行うこととしています。

外来種被害予防三原則

島ごとの本来の自然環境を外来種が壊してしまうことのないよう、三原則をしっかりまもりましょう！

- | | |
|--------|------------------------------|
| 1 入れない | 悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに持ち込まない |
| 2 捨てない | 飼っている外来生物を野外に捨てない |
| 3 拡げない | すでに野外にいる外来生物を他地域に拡げない |

【写真提供・制作協力】特定非営利活動法人 徳之島虹の会・興 克樹

編集・発行 環境省 徳之島管理官事務所

〒891-7692 鹿児島県大島郡天城町平土野 2691-1 天城町役場4階 ☎ 0997-85-2919 ☎ 0997-85-2045

徳之島の侵略的な 外来植物マップ

Tokunoshima Alien Species map



⚠️ ギンネム



⚠️ ニトベギク



⚠️ モクマオウ



⚠️ アメリカハマグルマ



⚠️ オオゴンカズラ



- ⚠️ 凡例 ⚠️
- アカギ
 - アメリカハマグルマ
 - オオキンケイギク
 - ギンネム
 - ニトベギク
 - ボタンウキクサ・ホテイアオイ
 - オオゴンカズラ
 - モクマオウ
 - その他
(ノゲイトウ・モミジヒルガオ・ランタナ)

外来種ってなに？

外来種とは、人間活動によって他の地域から持ち込まれた動植物のことを指します。ペットとして飼われているイヌやネコ、ハイビスカスなどの街路樹や庭木なども、その多くが外来種です。有用で欠かせない外来種もありますが、外来種の問題は管理しきれなくなった場合に起こります。外来種が人の管理の手を離れると、動植物たちに大きな影響を及ぼすことがあります。元々ある自然環境に特に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのある外来種を「侵略的外来種」といいます。長い時間をかけて築き上げられた島の生態系に、それまで存在していなかった外来種が入り込むことで、本来の生態系が攪乱され、絶滅してしまう在来種が出てくることもあります。外来種と上手に付き合い、きちんと管理することがとても重要です。

徳之島の外来種

徳之島で見られる主な外来種を中心に紹介します。ここで取り上げた種のほかにも多くの外来種の定着が確認されていますが、みなさんに気を付けてほしい生き物を挙げています。

特定 特定外来生物 (外来生物法により、飼養・栽培、運搬等が原則禁じられている種) **緊** 緊急対策外来種 **重** 重点対策外来種 **総** 総合対策外来種

緊 ノネコ 重 ノイヌ



本来ペットであるはずのイヌやネコが、捨てられたり逃げ出したりすることで野生化し、アマミノクロウサギをはじめとする希少動物を捕食しています。徳之島では森と里が近く、ペットのイヌやネコが森と里を行き来していることがわかっており、飼い主がペットを適切に飼育・管理することが求められています。ペットは最期まで愛情を持って飼育する、去勢や避妊手術をする、予防接種を受けさせるなど、飼い主の責任を果たすことが重要です。

重 ニホンスッポン



奄美群島には本来生息していませんでしたが、現在は徳之島でも生息が確認されており、餌となる淡水魚類や無脊椎動物などへの影響が心配されています。雄の方がやや大きく、甲長は最大 35cmほどにもなります。ほかのカメ類と違い鱗板を持たず、柔らかな皮膚に覆われています。吻端が強く突出し、くちばしは強力で、咬みつくとなかなか放さないのが特徴です。注意が必要です。

重 ティラピア類



アフリカ原産のカワスズメ科の魚類で、奄美群島にはナイルティラピアとジルティラピアが定着しています。両種とも卵や稚魚を保護しますが、特にナイルティラピアは口内で保護を行うことが知られています。餌や産卵場所をめぐる、在来の淡水魚と競合することなどが指摘されています。

特定 ハイイロゴケグモ



雌の体長は 1.5cm ほどで、腹部下面に砂時計の形をした赤い斑紋があるため、多種と容易に見分けることができます。建物の外壁や側溝などに網を張り、雌は表面に突起のある丸い卵嚢を吊り下げます。建築資材などに紛れて運ばれるため、徳之島の空港や港、里でも発見されています。毒

量が少ないため人的な被害はほとんど報告されていませんが、毒性はほかのゴケグモ類と変わりません。

重 スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)



タニシに似た大型巻貝で、食用のために導入されました。水田やため池などに生息しており、草類や在来の水棲貝類に悪影響を与える可能性も指摘されています。水面より上の植物や水路の壁などに鮮紅色の目立つ卵塊を産み付けるため、容易に生息を確認

ことができます。沖縄では、人にも感染する広東住血線虫が発見されているので注意が必要です。

特定 ニューギニアヤリガタリクウズムシ



体長 4 ~ 6.5cm の陸生のプラナリアの仲間で、頭部が細く黒褐色の背面中央に細い白線があるのが特徴です。畑の周辺などの湿った場所に生息し、徳之島でも確認されています。カタツムリ類を捕食するため、在来の陸生貝類に悪影響

を与えるほか、人にも感染する広東住血線虫の中間宿主でもあり、注意が必要です。

緊 アメリカハマグルマ



つる状に匍匐して接地点から根を出して伸び、3 ~ 5m 程の長さになります。法面などの緑化用に導入されたものが広がっています。在来のハマグルマやキダチハマグルマとの交

雑が心配されるほか、繁茂すると在来の植物を被覆してしまい、生育できなくなるなどの影響があります。

重 アフリカマイマイ



大型の陸産貝類で、殻長は 15cm 以上になります。日本へは食用目的で導入され、先島諸島、沖縄諸島、奄美群島、小笠原諸島に定着しています。農作物や植木鉢などに卵や稚貝が付着して運ばれ、農作物

への被害のほか、人にも感染する広東住血線虫の中間宿主でもあるため、取り扱いには注意が必要です。植物防疫法によ

アシヒダナメクジ



殻のない巻き貝で表面は粘液質が少なく、体長は 8cm ほどになります。全体が黒く腹背から扁平になっていて、正中線に沿って黄斑があります。夜行性で、落葉や朽ち木の下などに生息してい

ます。農業害虫としても知られていて、広東住血線虫の中間宿主でもあるため注意が必要です。

重 アカギ



赤みを帯びた木肌が特徴で成長が早く、樹高は 15 ~ 25m までになる常緑高木です。日本では奄美群島、沖縄諸島、先島諸島及び小笠原諸島に分布しています。ほかの植物の生長

を抑える物質を放出するとされており、日本生体学会によって日本の侵略的外来種ワースト 100 に選定されています。

オオゴンカズラ (ポトス)



サトイモ科の植物で、ポトスという園芸名で観葉植物として販売されているものが野生化し広がっています。つるに線状の溝があり、茎から気根を出して木や岸壁を伝い登ります。葉は卵状の楕円形で表面に淡黄色の斑模様が入り、幼葉は 30 ~ 40cm 程度ですが、成葉になると約 70cm にもなり切れ込みが入ります。

特定 オオキンケイギク



高さ 30～70cm ほどになります。道路の法面緑化などに利用されたり、ポット苗として流通したりすることで広がりました。一度定着すると在来の野草を駆逐し、辺りの景観を一変させてしまいます。

キダチチョウセンアサガオ
(エンジェルトランペット)



低温に強く丈夫で育てやすい植物で、春温かくなってから旺盛に生育し、開花時期には大型の株に下向きに垂れ下がった花をたくさんつけます。有毒植物で取り扱いに注意が必要です。

ベゴニア



常緑性で、直射日光など強い光が当たらない半日陰の場所を好み、徳之島では集落の土手や林縁などで野生化したものが広がっています。開花時期が長く、ハート形の花びらが人気の園芸品種で、赤や白、黄色など色とりどりの花があります。

特定 ボタンウキクサ



多年生の浮葉植物で、広卵形～扇形の葉を重ねてつけています。かつては観賞用として輸入され、国内生産の行われたため、ホームセンター等で大量に販売されていました。繁茂すると水面を覆いつくしてしまい、湖沼や河川の水温の低下、水質の悪化を招きます。

重 ギンネム



マメ科の植物で、徳之島には戦後に牛の飼料として持ち込まれ野生化しました。樹高は1～5mほどで花は通年開花し、細長く扁平な豆果を付けます。日当たりのよい乾燥した場所を好み、生命力が強い

ため道路沿いや山の裾野まで広がっています。

ショウジョウソウ



明治時代に園芸用として日本に導入されたものが野生化し、現在は奄美群島、大東諸島、琉球諸島の畑地や原野に広く自生しています。草丈は50cm～1m前後になり、花期に頂部の苞葉が赤く色付くのが特徴です。

重 ホテイアオイ



多年生の浮葉植物で、高さは20～60cmほどになります。観賞用、家畜飼料として、明治中期にアメリカから輸入されました。繁茂すると水面を覆いつくしてしまい、湖沼や河川の水温の低下、水質の悪化を招きます。

総 ムラサキカッコウアザミ



熱帯アメリカ原産のキク科の植物で、観賞用として日本に入ってきたものが琉球列島各地で野生化しています。高さ30～70cmほどになり、枝先に白～淡紫色の頭花が散房状につきます。

重 セイタカアワダチソウ



切り花用の観賞植物として日本に導入され、帰化した植物で河原や空き地などに群生しています。高さは1～2m、良く肥えた土地では3～4m程度にもなります。秋に茎の先の方に濃黄色の小さな花をたくさんつけ、種子だけでなく地下茎でどんどん増えていきます。根から周囲の植物の成長を抑制する化学物質を出し、外来種法では要

注意外来生物に指定されています。

特定 ツルヒヨドリ



キク科の植物で、つる状に伸びて厚い藪を形成しながら林冠を覆うように繁茂します。日本では1984年に沖縄県で発見され、2017年時点で沖縄本島中部から北部にまで分布が拡大しています

が、徳之島ではまだ確認されていません。在来生態系や農作物などに深刻な被害を及ぼす恐れがあります。

重 モクマオウ



日本では防潮林として南西諸島、小笠原諸島に導入されたものが野生化しています。乾燥に適応し、海岸や乾燥地に多く広がります。茎の部分が落ちて厚く積もり、他の植物の成長を妨げるなどして純林化します。

重 モミジヒルガオ



日本には台湾から導入され、九州以南でよく見られます。つるは3～5mほどに伸び、樹木などに巻き付いて広がります。暖地では、淡い青紫の花を周年開花させます。

ニトベギク (コウティヒマワリ)



キク科で樹高は2～5mになり、茎が木質化して常緑の低木状になることがあります。観賞用として庭先に植えられたものが、一部で野生化し広がっています。

重 ノゲイトウ



草丈は最大1m程度に生育します。高温と乾燥に強く、荒地でもよく育つ丈夫な性質で、日本では園芸品種として流通していますが、関東地方以西の暖地では野生化し荒地や休耕地一面を覆う光景が見られます。

総 ヤナギバルイラソウ



春から晩秋までの長期間、葉腋から花茎を出しその先に紫色の花を咲かせます。葉は柳の葉に似て細長く、緑色の葉に紫色の葉脈が走ります。草丈は60～90cmほどになり、徳之島

では野生化したものが道路沿いや川沿いなどで広がっています。

重 ランタナ



常緑小低木で暖地ではよく育ち、高さ1.5mほどに成長します。徳之島でも観賞用として持ち込まれたものが野生化し、広がっています。ピンクや黄色オレンジなど、多数の小花からなる散形花序を付け、開花後、時間がたつと次第に花の色が変わる特徴があります。